

科目コード	22209	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	初等理科 [FE2632組用]	担当者名	川村 康文			○			
		実務経験との関連	中学校教員、高等学校教員、公立科学館館長としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。1班約4人でグループを組んでもらいます。授業では、先生役の班と、先生役ではない班は、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では、楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう、持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんと楽しく共有できることを第1目標として、指導案なしで先生役を担当してもらいます。ICTも活用して下さい。模擬授業後は、全員で、模擬授業のふりかえりを行います。

### <授業の到達目標>

1. 実験をみなさんと楽しく共有できる。
2. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。
3. 毎模擬授業の振り返りを行うことで、授業力の向上をめざす。

### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、て、自立的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。
2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。
3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。
4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、振り返り（レフレクション）40%等で評価する。

### <教科書>

川村 康文（2014）理科教育法 独創力を伸ばす理科授業講談社

文部科学省（2018.2.10）小学校学習指導要領[https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf)

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるためにSTEAM教育って何？（教科書）	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、て、まとめたものを発表してもらいます。ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は、振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは、板書を消したり、実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何をつたえるのか？一幼小の授業の連携を考えながらー	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで、教科書「はじめてみようSTEAM教育」の幼児教育についてまとめ、小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを、あなたなら、これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて、写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、て、まとめたものを発表してもらいます。各班で、どの実験をするかを話し合っ、て、このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを各自、アップしてもらいます。模擬授業のルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	対面4月23日28日各班で、どの実験をするかを話し合っ、て、このクラス全体のスケジュール表を作成し、この静止画を各自アップしてください。
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験（pp.44-45）」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験（pp.44-45）」を行っ、て、下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験（pp.112-113）」	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験（pp.112-113）」を行っ、て、分光つつで撮影したスペクトルの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド 5月14日19日教科書の実験「15. 風船ロケットの実験（pp.66-67）+飛行リング」	オンデマンド 5月14日19日 教科書の実験「15. 風船ロケットの実験（pp.66-67）+飛行リング」を行っ、て、自分が作成した風船ロケットの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日26日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう（pp.92-93）」	対面5月21日26日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう（pp.92-93）」を行っ、て、自分が作成した弦楽器の動画（4秒以内程度）を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。

8	対面 6月2日4日教科書の実験「78. スライム (pp. 188-189)」	対面 6月2日4日教科書の実験「78. スライム (pp. 188-189)」を行って、自分が作成したスライムの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」 (p. 116)	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」 (p. 116)を行って、自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」 (pp. 122-123) (ただし、内容は46の実験を行う)	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」 (pp. 122-123) (ただし、内容は46の実験を行う)を行って、自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」 (pp. 90-91)	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」 (pp. 90-91)を行って、自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画 (4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」 (pp. 100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」 (pp. 100-101)を行って、自分で撮影した顕微鏡写真を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド 7月7日9日Scratchで、プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド 7月7日9日STEAM教育の教科書をみて、Scratchで、プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面 7月14日16日 リフレクション・まとめ	対面 7月14日16日全体のふりかえりを行います。

科目コード	20305		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	次世代教育学 [FE+他学科小学校免許希望者]		担当者名	大野呂 浩志、中安 翼			○		
			実務経験との関連	担当者の中で特別支援学校教員、小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育を担う「教師」育成のために、学校教育の現代的課題にも焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、授業を実践します。

### <授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な要素を身につける中で、次世代の児童に必要な要素は何なのかを意識し、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識も常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることができる。

### <授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出する事。授業形態は、講義形式だけでなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度30%、発表資料・課題50%、最終レポート20%により判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は担当教員が行います。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要について
2	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
3	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
4	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
5	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
6	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
7	前半のまとめ	前半の講義を振り返り、次世代の教育に必要な資質・能力について自分の考えをまとめ、発表する
8	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
9	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
10	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
11	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
12	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
13	次世代教育について	次世代の教育について必要な資質能力をもとに、今後自分が身につけていきたい力についてまとめる
14	まとめ	本授業で学んだことを振り返り、将来どのような教員になりたいかについて発表する

科目コード	20305		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	次世代教育学 [FC]		担当者名	後藤 由佳、宮原 舞			○		
			実務経験との関連	担当者の中で専門学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「次世代教育学」は、国家資格である保育士資格および幼稚園教諭一種免許状の取得における必修科目であり、あわせてこども発達学科の卒業必修科目である。本授業では、大学生として必要な基礎的スキル（ビジネスメール、電話応対、文章作成、プレゼンテーション）を身につけるとともに、保育教材や児童書を題材として、内容の要約や考察を行い、自らの考えを論理的に表現する力を養う。さらに、教材の教育的意義や保育現場での活用可能性について検討し、発表や交流を通して多様な視点を理解する。最終的には、自ら選んだ図書について総合的にまとめ、表現することを目指す。

### <授業の到達目標>

① 大学生・社会人として必要な基本的マナーやコミュニケーション能力を身につけ、適切に実践することができる。② レポート作成の基礎を理解し、論理的な文章を作成することができる。③ 保育教材や児童書の内容を的確に読み取り、その教育的意義や保育現場での活用可能性について考察し、自らの考えを発表・文章として表現することができる。

### <授業の方法>

講義、個人ワーク、ペア・グループでの交流、発表、レポート作成等を組み合わせて行う。必要に応じて各種資料や図書館資料を活用し、図書の探し方や情報収集の基礎について学ぶ。各回では、読む・書く・話す活動を通して、内容理解と表現力の向上を図る。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 授業に対する取り組み姿勢 40%② 小課題（レポート等）40%③ 大課題（発表・プレゼンテーション）20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業のねらい、進め方、到達目標、評価方法を理解する。
2	ビジネスメール・電話応対	欠席連絡や見学依頼を想定したメール作成、電話のかけ方・受け方を学ぶ。
3	お礼状・感謝の伝え方	実習後のお礼状など、適切な感謝の表現方法を学ぶ。
4	プレゼンテーションの基礎	発表の構成や伝え方の基本を理解する。
5	レポート基礎①	レポートと感想文の違い、構成、論理的な文章の組み立て方を学ぶ。
6	レポート基礎②	文章の要点を捉え、簡潔かつ正確に要約する方法を学ぶ。
7	保育教材の探究①	保育教材の内容を要約し、感想を整理する。
8	保育教材の探究②	要約・感想について発表・交流を行い、多様な視点に触れる。
9	保育教材の探究③	教材の教育的意義や保育現場での活用について考察する。
10	保育教材の探究④	教材の教育的意義や保育現場での活用について、発表・交流を行う。
11	My favorite book①	図書を選定し、内容を要約する。
12	My favorite book②	選んだ図書に込められた教育的意義やメッセージについて考察する。
13	My favorite book③	図書の内容や考察について発表・交流を行う。
14	総まとめ	授業全体を振り返り、最終レポートの作成を通して学習成果をまとめる。

科目コード	22210	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	初等社会 [FE2631組用]	担当者名	鉦 悠介			○			
		実務経験との関連	独立行政法人特別支援教育に関する研究所の研究補佐員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方をういた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

#### <授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

#### <授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に設定する毎回のレポート(80%)、及び中間レポートと最終レポート(20%)

#### <教科書>

文部科学省小学校学習指導要領解説社会編

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーションとチーム分け	授業の概要（目的や内容、成績評価等）の説明，グループ作り
2	目標・内容・方法	目標・内容・方法を区別すること，つなげて考えること
3	目標の多様性	社会科の目標の多様性を知ること
4	問い（1）	問いを中心に授業を構成すること，問いの価値を判断すること
5	問い（2）	問いを構造化すること
6	指導案作成（1回目）	第5回までの学習内容に基づき指導案を作成する
7	資料（1）	人文・社会諸科学と社会科の関連性
8	資料（2）	アクセスしうる資料の場所について
9	資料（3）	資料の加工の方法と重要性について
10	評価（1）	目標に準拠した評価について
11	評価（2）	多様な背景を持つ子どもとの関連の観点から評価を考える
12	指導案作成（2回目）	第11回目までの学習内容をもとに指導案をブラッシュアップする
13	社会科のはじまりと今後	社会科の成立経緯や今後の諸論点について
14	最終レポート作成	授業の総括と最終レポート作成に向けた準備

科目コード	32305	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	理科教育法 [FE2532組用]	担当者名	川村 康文			○			
		実務経験との関連	中学校教員、高等学校教員、公立科学館館長としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり学習指導案を立てて模擬授業を担当し、授業で先生役があたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に実験を含んだ40分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用法も習得する。模擬授業の後には、全員で、模擬授業のふりかえりを行います。

### <授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

### <授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役かつ評価者役を行って頂きます

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（模擬授業や課題提出等の平常点を含む）60%、振り返り（レフレクション課題を含む）40%等で評価する。

### <教科書>

川村 康文（2014）理科教育法 独創力を伸ばす理科授業講談社

文部科学省（2018.2.10）小学校学習指導要領[https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf)

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	対面9月24日30日2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	対面9月24日30日初等理科（昨年度は自然の理解という名称）の授業を踏まえて、理科教育法では、模擬授業を中心に授業を進めます。どんなテーマで模擬授業をするのかを決めてもらいます。4人程度でひとつの班をくみます。対面の授業では、40分程度の模擬授業を行ってもらいます。（といっても、最初は40分のつもりが60分ぐらに伸びてしまうこともあります）。学習指導案をきちんと作って模擬授業をします。なお、ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルール
2	対面10月1日7日教科書の実験「84. 高分子吸収剤」（pp198-199）	対面10月1日7日教科書の実験「84. 高分子吸収剤」（pp198-199）を各自行って、コップをひっくり返しても水ができてこない実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
3	オンデマンド 10月8日14教科書の実験「8. ホバークラフト」（pp. 52-53）	オンデマンド 10月8日14教科書の実験「8. ホバークラフト」（pp. 52-53）を各自作って、実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。CDやペットボトルキャップなどは、できるだけサイクルして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
4	対面 10月21日22日教科書の実験「27. ストローウエーブマシンを作ろう」（pp. 84-85）	対面 10月21日22日教科書の実験「27. ストローウエーブマシンを作ろう」（pp. 84-85）を班で1つ作って、実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。共同で実験してもいいですが、動画は必ず、一人ひとりあげて下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	オンデマンド 10月28日29日教科書の実験「108. 耐震・免振・制振」（pp. 232-233）の実験	オンデマンド 10月28日29日教科書の実験「108. 耐震・免振・制振」（pp. 232-233）の実験を各自行って、耐震が有用とわかる実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
6	対面 11月4日5日教科書の実験「5. 浮沈子」（pp. 47-47）	対面 11月4日5日教科書の実験「5. 浮沈子」（pp. 47-47）を各自作って、実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面 11月11日12日教科書の実験「88. イワシの解剖」（pp. 204）	対面 11月11日12日教科書の実験「88. イワシの解剖」（pp. 204）を各自行って、整理した写真（教科書を参考）を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
8	対面 11月25日26日模擬授業1 模擬授業2	対面 11月25日26日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。

9	対面 12月2日3日模擬授業3 模擬授業4	対面 12月2日3日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行っていただきます。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
10	対面 12月9日10日模擬授業5 模擬授業6	対面 12月9日10日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行っていただきます。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
11	対面 12月16日17日模擬授業1 模擬授業2	対面 12月16日17日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行っていただきます。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
12	対面 12月23日24日模擬授業3 模擬授業4	対面 12月23日24日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行っていただきます。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
13	対面 1月13日14日模擬授業5 模擬授業6	対面 1月13日14日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行っていただきます。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
14	オンデマンド 1月20日21日 リフレクション・まとめ	オンデマンド 1月20日21日全体のふりかえりを行います。

科目コード	51009		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)《通年》		担当者名	羽田 あずさ、安井 正郎、奥山 優、木野 正一郎、三堀 仁、千葉 照久、本藤 展康、藤井 健太郎、内田 仁志、中安 翼、小川 智勢子、練苧 千之、鈺 悠介、西田 修斗、岸本 勝義、村上 尚徳			○		
			実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00	授業方法	実習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

### <授業の到達目標>

教育実習生としての心構えをもち、教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。教職を志す者としての資質を向上させるために、教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図るとともに、教育実習の成果と課題を自己評価することができる。

### <授業の方法>

講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにした振り返りを行う。特に授業の中では、学生による模擬授業を行う中で、授業展開や教具、発問について受講者同士で議論し合いながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①出席・態度（30%）：【出席：3点】【注意：2点】【遅刻：1点】【欠席：0点】※公欠（実習等）は【3点】※欠席課題で出席になる場合は提出をもって【3点】②模擬授業（30%）：それぞれの回で、以下の観点で評価します。【S:3点】【A:2点】【B:1点】【C:0点】（1）授業者についてS・・・期日を守って、指導を受け、指導案の作成と授業準備を意欲的に行った。模擬授業（進め方・児童対応・言動など）は優れていた。A・・・期日を守って、指導を受け、指導案の作成と授業準備を行った

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	教育実習の手続き・心構え児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	模擬授業説明	模擬授業説明・授業日程決め
3	授業づくりの基礎基本	指導案の作成、授業づくり
4	実習の心構え	教職員等による児童生徒性暴力等の防止
5	模擬授業①	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
6	模擬授業②	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
7	模擬授業③	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
8	模擬授業④	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
9	模擬授業⑤	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
10	模擬授業⑥	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
11	模擬授業⑦	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
12	模擬授業⑧	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
13	模擬授業⑨	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
14	模擬授業⑩	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
15	事後指導（最終）	教育実習の振り返り

科目コード	31402		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	内田 仁志			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義・演習・発表	卒業要件	選択

### <授業の概要>

児童生徒の学習活動と学校図書館メディアとの関係について理解し、学校図書館を活用した学習指導の方法を学ぶ。レファレンスブックの特性と活用方法、情報活用能力の育成、パスファインダーの作成など、学習活動を支援する具体的な方法について扱う。また教科書を用い、資料を根拠として考えを形成し、対話や議論を通して学びを深める授業の在り方について理解する。

### <授業の到達目標>

- ① レファレンスブックを適切に活用できる② 学校図書館メディアを用いた指導を説明できる③ パスファインダーを作成できる④ 情報活用能力の育成について理解する

### <授業の方法>

本授業は対面形式で実施し、講義とグループワークを組み合わせる。前半では学校図書館メディアの特性やレファレンス、情報活用能力について講義を通して理解する。後半では教科書を用い、資料を活用した思考活動や議論活動を体験しながら、学校図書館を活用した授業づくりについて学ぶ。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出30％・レポート内容40％・最終まとめ30％

### <教科書>

内田仁志（2024年8月）国語教師のための「反論の技術」入門明治図書

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要と学校図書館活用の意義	本授業の目的、進め方、評価方法について説明する。学校図書館を活用した学習の意義について概観し、学校教育における学校図書館の役割を理解する。読書活動だけでなく、調べ学習や探究学習の場としての機能に着目し、学校図書館が学習活動の基盤となる理由について考える。
2	学習活動と学校図書館	児童生徒の学習活動と学校図書館の関係について学ぶ。各教科の学習において資料活用がどのように行われるかを理解し、学校図書館が学習を支える役割を確認する。調べ学習や探究学習における図書館活用の具体的な場面を想定しながら、その教育的意義について考える。
3	レファレンスブックの基礎	辞書、事典、年鑑などのレファレンスブックの種類と特性について学ぶ。各資料の特徴や用途を理解し、どのような場面で活用するかを具体的に考える。児童生徒が必要な情報に適切にアクセスするための基礎的な知識として、レファレンス資料の役割を理解する。
4	レファレンスサービスの実践	学校図書館におけるレファレンスサービスの実践について学ぶ。児童生徒の問いに応じて資料を紹介し、学習を支援する方法について理解する。調べ学習における支援の在り方や、教師と司書教諭の連携の重要性について具体的な事例をもとに考える。
5	情報活用能力の基礎	情報活用能力の基本的な構成について学ぶ。情報の収集、整理、活用の一連の過程を理解し、学校教育におけるその育成の重要性について考える。資料をもとに考えを形成する学習活動の基礎として、情報活用能力がどのように位置づけられるかを整理する。教科書 第1章（導入）
6	資料を活用した思考活動	学校図書館資料を活用し、主張と根拠を整理する思考活動について学ぶ。文章や資料を読み取り、情報を比較・整理しながら自分の考えを形成する過程を理解する。情報活用能力の育成という観点から、資料を根拠とする思考活動の意義について考える。教科書 第1章
7	教材としての資料の選択	学習活動に適した資料の選び方について学ぶ。児童生徒の発達段階や学習課題に応じた資料選択の視点を理解し、教材としての資料の条件について考える。学校図書館資料を活用した授業づくりにおいて、どのような資料が有効かを具体的に検討する。
8	情報活用と意見形成	資料をもとに自分の意見を形成する学習について学ぶ。情報を読み取り整理し、主張と理由を明確にする過程を理解する。学校図書館資料を活用した学習活動において、思考力や表現力を育てる指導の在り方について考える。教科書 第3章
9	対話と議論の指導①	資料をもとにした対話や話し合い活動について学ぶ。自分の考えを表現し、他者の意見と比較することで理解を深める学習の意義を理解する。学校図書館資料を活用した対話的な学びの具体的な進め方について考える。教科書 第4章
10	対話と議論の指導②（発展）	議論活動を通して思考を深める学習について学ぶ。複数の資料を比較しながら意見を構築する過程を理解し、議論によって学びを深化させる指導の在り方について考える。学校図書館資料を活用した議論活動の展開方法を検討する。教科書 第4章（応用）

11	批判的思考の育成	資料を批判的に読み取る力について学ぶ。主張と根拠の妥当性を検討し、多様な視点から情報を捉える思考の重要性を理解する。学校図書館資料を活用して情報を吟味する学習活動の意義について考える。教科書 第5章
12	パスファインダーの作成	学習活動を支援するパスファインダーの作成について学ぶ。調べ学習において必要な資料を整理し、学習の見通しを持たせるための工夫について理解する。学校図書館資料を活用した学習支援の方法として、パスファインダーの役割を考える。教科書 第2章・第5章（応用）
13	図書館を活用した授業設計	学校図書館を活用した授業設計について学ぶ。資料を活用して課題を解決する学習活動の構成を理解し、児童生徒の思考を深める授業づくりの視点を整理する。図書館と教科指導を結び付けた授業の在り方について考える。教科書 第6章
14	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、学校図書館を活用した学習指導の意義と方法について整理する。レファレンス、情報活用能力、授業設計などの内容を総合的に確認し、理解の定着を図る。確認テストを通して学習内容の到達度を把握する。教科書総括

科目コード	31400		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校経営と学校図書館 [週間オンデマンド]		担当者名	内田 仁志			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期週間オンデマンド	単位数	2.00	授業方法	オンデマンド	卒業要件	選択

### <授業の概要>

学校教育における学校図書館の役割について、社会・教育制度・学校経営の視点から理解する。学校図書館法や教育行政との関係、学校図書館の経営や運営、司書教諭の役割と職務について学ぶ。また学校図書館は読書活動の場であるだけでなく、資料を活用した学習活動や情報活用能力の育成を支える学習の拠点でもある。本授業では参考書を用い、資料を根拠として考えを形成する思考活動や議論活動の方法についても理解を深める。オンデマンド形式で講義を行い、各回の振り返り課題により学習内容の整理を行う。

### <授業の到達目標>

- ① 学校図書館の理念と役割について説明できる。② 学校図書館法や教育行政との関係について理解する。③ 学校図書館の経営・運営および司書教諭の職務について説明できる。④ 学校図書館資料を活用した学習活動や情報活用能力の育成について理解する。

### <授業の方法>

本授業はオンデマンド形式で実施する。各回では講義動画と配布資料を用いて学校図書館の理念、制度、経営、司書教諭の役割について解説する。受講者は動画視聴後にGoogleフォームによる振り返り課題に取り組み、学習内容を整理する。授業後半では参考書を用い、資料を根拠として意見を形成する学習活動や議論活動の教育的意義について考察する。学校図書館を活用した学習活動の可能性について理解を深める。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する・毎回レポート提出30%・レポート内容40%・最終まとめ30%

### <教科書>

内田仁志（2024年8月）国語教師のための「反論の技術」入門明治図書

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要と学校図書館の役割	本授業の目的、授業方法、評価方法について説明する。学校教育における学校図書館の役割を概観し、読書センター・学習センター・情報センターとしての三つの機能について理解する。学校図書館が学校教育において果たす基本的役割を整理する。
2	学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の教育的意義について学ぶ。読書活動の推進や学習活動の支援など、教育活動の中で学校図書館がどのように活用されているかを理解する。学校図書館が児童生徒の学習環境を支える教育施設であることを確認する。
3	学校図書館制度と法制度	学校図書館法を中心に学校図書館の制度について理解する。学校図書館の設置目的や教育行政との関係について学び、学校図書館が教育制度の中でどのように位置づけられているかを確認する。
4	司書教諭の役割と職務	司書教諭の役割と職務について理解する。学校図書館の運営や読書活動の推進、授業支援など司書教諭が学校教育の中で担う役割について学ぶ。学校図書館が教育活動を支える場として機能するための条件について考える。
5	学校図書館の経営と運営	学校図書館の経営や運営について学ぶ。図書資料の整備や利用促進、学校全体での図書館活用など学校図書館を効果的に運営するための基本的視点を理解する。学校図書館経営の基本的考え方を整理する。
6	学校図書館メディアの整備	学校図書館における資料の収集・整理・提供について学ぶ。児童生徒の学習活動を支える資料整備の重要性を理解し、学校図書館資料が学習活動にどのように活用されるかを確認する。
7	読書活動と学校図書館	学校図書館を中心とした読書活動の意義について理解する。読書活動が児童生徒の言語能力や思考力の育成にどのように関わるかを考える。学校図書館を活用した読書活動の実践について整理する。
8	学校図書館と論理的思考	学校図書館資料を活用し、資料を読み取り主張と根拠を整理する思考活動について学ぶ。資料を根拠として意見を形成する学習活動の意義を理解し、情報活用能力の育成という観点から学校図書館の役割を考える。教科書第1章

9	教材研究と資料の選択	学習活動においてどのような資料を教材として選ぶかについて学ぶ。児童生徒の生活と関連した教材の重要性を理解し、学校図書館資料を活用した教材研究の視点について考える。教科書 第2章
10	話し合い活動と論理構成	主張と理由の関係を整理しながら考えをまとめる方法について学ぶ。学校図書館資料を根拠として意見を形成する学習活動を通して、論理的思考を育てる授業の可能性について考える。教科書 第3章
11	議論活動の教育的意義	資料を根拠として意見を述べ、他者の意見と比較する議論活動について学ぶ。学校図書館を活用した議論活動が思考力や表現力の育成にどのように関わるかを理解する。教科書第4章
12	批判的思考の育成	資料を読み取り主張と根拠を吟味しながら考える批判的思考について学ぶ。学校図書館資料を活用して多様な意見を比較する学習活動の意義を理解する。教科書 第5章
13	学校図書館を活用した授業設計	学校図書館資料を活用した授業の設計について考える。資料を用いて意見を形成し交流する学習活動の方法を理解し、学校図書館が学習活動の拠点となる授業づくりの視点を整理する。教科書 第6章
14	授業のまとめと確認テスト	授業全体を振り返り、学校教育における学校図書館の役割について整理する。学校図書館の理念、制度、運営、学習活動への活用について確認し、Googleフォームによる確認テストを実施する。教科書総括

科目コード	31403		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	読書と豊かな人間性 [週間オンデマンド]		担当者名	内田 仁志			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期オンデマンド	単位数	2.00	授業方法	オンデマンド	卒業要件	選択

### <授業の概要>

発達段階に応じた読書のあり方について理解し、読書教育の意義と方法について学ぶ。児童生徒が読書の楽しさを知り、読書習慣を形成し、生涯にわたる学びへとつなげるための指導について考える。また学校図書館を活用した読書活動や読書環境の整備についても扱う。さらに読書を通じた思考力・表現力の育成にも着目し、教科書を用いて文章理解や意見形成の方法について理解を深める。オンデマンド形式で実施する。

### <授業の到達目標>

① 発達段階に応じた読書指導について説明できる② 読書教育の意義と方法について理解する③ 司書教諭の役割と読書活動の関係を説明できる④ 読書を通じた思考力・表現力の育成について理解する

### <授業の方法>

本授業はオンデマンド形式で実施する。各回では講義動画と資料を用いて読書教育の理論や実践について解説する。受講者は動画視聴後にGoogleフォームによる振り返り課題に取り組み、学習内容を整理する。授業後半では教科書を用い、文章を読み取り主張と根拠を整理する活動や意見形成の方法について学ぶ。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出30％・レポート内容40％・最終まとめ30％

### <教科書>

内田仁志（2024年8月）国語教師のための「反論の技術」入門明治図書

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の概要と読書教育の意義	読書教育の目的と意義を概観し、読書が児童生徒の成長に果たす役割を理解する。
2	読書と人間形成	読書が情緒や価値観の形成に与える影響について理解し、読書の教育的意義を考える。
3	発達段階と読書①（低学年）	低学年における読書の特徴と指導方法を理解し、読書習慣形成の基礎を学ぶ。
4	発達段階と読書②（中学年）	中学年における読書の発達と指導の工夫について理解する。
5	発達段階と読書③（高学年・中高）	高学年以降の読書の発達と読解の深化について理解する。
6	読書環境の整備	学校図書館を中心とした読書環境づくりについて理解する。
7	司書教諭と読書活動	司書教諭の役割と読書活動の推進について理解する。
8	読書と論理的思考	文章を読み取り主張と根拠を整理する活動について学び、読書と思考力の関係を理解する。教科書 第1章
9	教材としての文章理解	主張と根拠が明確な文章の特徴を理解し、教材としての文章の扱い方を学ぶ。教科書 第2章
10	読書と意見形成	文章内容を踏まえて自分の考えを形成する方法について理解する。教科書 第3章
11	読書と対話・議論	読書内容をもとに意見を交流する学習活動について理解する。教科書 第4章
12	批判的読解	主張と根拠を吟味しながら読む批判的読解の方法について学ぶ。教科書 第5章
13	読書を生かした授業設計	読書活動を生かした授業づくりの視点について理解する。教科書 第6章
14	まとめと確認テスト	読書教育の意義と方法について整理し、確認テストを実施する。教科書総括